

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」南宮崎校		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 7日		令和7年 11月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 7日		令和7年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しく活動に参加できる体制を整えている	定着した支援を継続することは活動が固定化されやすい為マンネリ化しないように心掛けている。	ご自身のやりたい気持ちを大切にしながら経験値をふやし自身のできることが増えるように支援に取り組みます。
2	担当制にすることで関係性の構築を図ることができている	お子さま1人ひとりの特性に合わせてその日の体調や様子について話すことで相談をしながら支援を進めています。また担当制にすることでお子さまが安心して関わる	引き続きお子さま1人ひとりの様子を観察しながら関わることで、小さな変化にも気づいて対応ができるように意識していきます。
3	支援の様子を毎回丁寧に教えてもらえる	支援後は10～15分のフィードバックの時間を設けて今日のプログラムの狙いや支援の様子、ご家庭、通われている園の様子を共有しながら進めています。	フィードバックの時間内にお伝えすることが難しい場合はLINEでお伝えしています。 また相談がある場合はいつでも30分～1時間程度「家族支援」のご案内もしています。 引き続き保護者様との情報共有を丁寧に行い支援を進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	駐車場が少ない	できるだけ多くの車が止められるように詰めて駐車して頂くように周知お願いしております。またイベント開催時は近隣駐車場にご協力を頂き駐車スペースの確保をしています。	通常支援の際は時間内の来所やスムーズに帰宅のご協力をお願いしています。イベントの際は混みあわないように時間をずらして来所して頂くように工夫をしています。
2	お子さまによっては他の人の声や音が気になってしまうことがある	視界に入らない工夫や支援時間の調整	個室を活用したり支援時間を工夫して調整します。 できる限り支援時間を分散することで集中して支援を受けられる環境調整を行います。
3	緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症マニュアルなどの策定・周知・説明・訓練の実施の周知が定着できていない	契約時に事業所の閲覧スペースのご案内のみとなっている	定期的にブログなどのSNSツールを使って周知をします

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 南宮崎事業所

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

10

回収数

10

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	0	1	0	のびのびと過ごせる一方で走り回る際 の他児との接触はあるものの一人ひとりの スペースは十分確保されています。	走る活動と静かな活動の場を分けるなど 環境面の工夫を行い、声かけやルール の確認を通して、安全に過ごせるよう対応 していきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1	0	0	複数の職員に丁寧に見守ってもらえる安 心感があり専門性は発展途上ながら、人 員体制は十分と感じています。	今後も複数職員による見守り体制を継続 し、研修や情報共有を通して専門性の向 上を図り、より質の高い支援につなげて いきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4	5	1	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	10					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	10					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	10	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	0	0	0	保護者の意見、通っている保育園の意見 をしっかりと聴いて作成していただいて います。	今後も保護者や通っている保育園等の 意見を丁寧に聴き、関係機関と連携しな がら支援計画の充実を図っていきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います か。	8	2	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。	6	3	1	0	基本的に子どものやりたいことを尊重し つつ、適切な声掛けでさまざまな活動に 取り組んでいると感じています。	今後も子どもの「やりたい」という気持 ちを尊重しながら、適切な声かけを行 い、さまざまな活動に安心して取り組め る支援を継続していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につい て丁寧に説明がありましたか。	10	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。	10	0	0	0		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていますか。	10	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	0	0	0	いつも丁寧に活動内容を知らせていた で、子どもも通所を楽しみにしている様 子が親としてとても嬉しいです。	今後も丁寧な情報共有を大切にし、お子 様が安心して通所を楽しめるよう、保護 者との連携を継続していきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	2	0	0	相談すると保護者の思いに丁寧に寄り添っ ていただき、本音で話せる安心感があり ます	今後も保護者の思いに丁寧に寄り添い、 本音で安心して相談できる関係づくりを 大切にしていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10					

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	0	0	0	イベント等、交流の機会は作られている。	今後も保護者の思いに丁寧に寄り添い、本音で相談できる関係性を大切にしながら、イベント等を通して交流の機会づくりを継続していきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	1	0	0	分かりません。	各種マニュアルや訓練の実施状況について、今後はより分かりやすく保護者様へ周知してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	0	0	分かりません。	各種マニュアルや、法令に基づき月1回実施している避難訓練について、分かりやすく保護者様へ周知してまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	0	0	駐車場問題をどうにかしてほしいです。	通所を楽しみにしている気持ちを大切にしつつ、駐車場利用について安全面や利便性を踏まえ、改善策の検討と周知を進めていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」南宮崎校		2026年 2月 14日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		行政指導のもと適正なスペースを確保し、枠ごとの上限設定や距離感への配慮、個別ブース環境の整備によって、同時時間帯の利用状況を把握しながら適切な支援を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		枠ごとに支援数の上限を設け、行政指導に基づいた定員・人員配置を適正に保ちながら、支援数や活動内容に応じて職員同士で調整・役割分担を行い、常に一対一の支援環境を確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	事業所内は段差がなく広々としたスペースを確保し、安全に行動できる環境を整えている。	玄関の段差や手すりの未設置箇所については、動線の見直しや転倒リスクの軽減など、バリアフリーへのさらなる配慮を進めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動に合わせて机の配置や物の移動をしている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別支援を行っているため個別の部屋で仕切りがあり他者が視界に入らないように配慮している	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○	告知や個別の目標設定、児発管と担当での定期的な振り返りは行えている。	職員全体で共有し話し合う時間が不足しており、参画の機会を増やす必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の意見を自由記述で把握し、職員間で共有・話し合いを行いながら毎年の事業所評価と連動させ、改善策を検討して業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ホームページやブログ、LINEなどを活用して情報を公開し、保護者が見やすい形で展示しながら、ありのままの内容を開示できている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価を実施していない。	外部評価の機会を職員間で共有し、現状の改善策を正しく検討しながら組織全体で改善へつなげていく必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人や事業所で実施される研修や有志研修に積極的に参加し、研修時間を確保しながら職員の資質向上に努めている。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援方針や目的に合わせて支援プログラムを作成し職員間同志で共有し支援を行っている	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		モニタリングやアセスメント内容を踏まえ、多角的な視点で個々のニーズに応じた支援計画を作成・年1回更新するとともに、細かな情報共有を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者の意向とこどもの状況を踏まえながら双方の視点を大切にしながら支援会議において支援内容を検討・共有している	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画に基づき現状を把握し、5領域のバランスを意識しながら、具体的に本児が楽しめる支援内容を計画・実施している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートを活用し、細かな状況把握をもとに常に確認・更新しながら、発達支援研究所と会社が作成した資料を時代に合わせて年1回改訂し、支援に活かしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域に沿った支援計画をもとに児童の特性や個々のニーズを把握し、具体的な支援内容を設定・継続することで、成功体験につながる個別療育を実施している。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	個別支援の担当制によりチーム全体で内容を共有できていない。	職員同士のやり取りだけでなく、支援内容を共有し合える体制づくりが課題となっている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用児の興味やペースに合わせて臨機応変に支援内容を調整し、スモールステップで自己肯定感を高めながら、毎回変化のあるプログラムを立てて状況を把握しつつ取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本は個別支援を行いながら、子どもの状況を保護者と共有したうえで支援計画を作成し、イベント時などに小集団活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		担当制のもと、朝礼や支援前の打ち合わせで最近の様子や支援内容を申し送りし、必要な引き継ぎを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必要に応じて記録やメモで情報を残し、担当制の中でも状況に合わせて適宜打ち合わせや共有を行うよう工夫している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録を漏れなく正確に記載し、前回の記録から子どもの様子を読み取って検証・改善につなげ、次回の支援に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、現状を把握したうえで必要に応じて支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		主に児童発達支援管理責任者が参画し、状況に応じて担当職員も参加しながら、現状把握や分野・知識の共有を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	保護者からの依頼や要望を丁寧に聞き取り、必要に応じて担当者会議やケース会議を実施し、関係機関と情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じてケース会議を開催し、保育園等へ出向いて情報共有や意見交換を行うことで、三者連携を図り、移行支援に向けた相互理解と支援の質の向上に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じてケース会議を開催し、学校へ出向いて情報共有や意見交換を行うとともに、家庭からの相談内容も踏まえながら、就学・移行に向けた相互理解を深めている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○		外部研修への参加を促すとともに、内部研修を通して専門的な視点の共有を行い、他事業所や関係機関とのつながりを意識した支援の質向上に努めている。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修への参加を促すとともに、内部研修を通して専門的な視点の共有を行い、他事業所や関係機関とのつながりを意識した支援の質向上に努めている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		開所初年度から地域の会議や研修に児童発達支援管理責任者や職員が継続して参加し、情報収集や関係機関との連携につなげている。	
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		随時相談ができる体制を整えている	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	現在、他機関との交流や障がいのない子どもとの関わりの機会は設けていない。	支援時間の制約も踏まえつつ、保育所等訪問や交流の場の設定について今後検討していく必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後に必ず保護者へフィードバックを行い、日々の些細な変化や様子も丁寧に共有することで、共通理解を深めている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ママカフェなど個別対応は行っている一方、ペアレントトレーニングなど具体的な保護者支援が実施できていないため、今後取り入れていく体制づくりが課題となっている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に必要事項を丁寧に説明し、利用者が理解しやすいよう適宜対応しながら、分かりにくい部分にも配慮して説明を行うよう工夫している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援後に必ず保護者へフィードバックを行い、日々の些細な変化や様子も丁寧に共有することで、共通理解を深めている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援管理責任者がガイドラインや個別支援計画をもとに分かりやすく説明し、定期的なモニタリングを踏まえて保護者の同意を得ながら支援を進めている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		支援後に必ず保護者へフィードバックを行い、日々の些細な変化や様子も丁寧に共有することで、共通理解を深めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年に数回、親子レクリエーションやママカフェ、保護者会を開催し、親子で関われる機会や保護者同士がつながれる場を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談体制を整え、職員間で確認・連携しながら保護者の気持ちに寄り添った丁寧かつ迅速な対応を行い、必要に応じて関係機関とも連携している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログ・LINE・Instagramを活用し、活動の様子や予定を定期的かつ継続的に発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報を含む書類は鍵付きロッカーやキャビネットで施錠管理し、保管場所を把握したうえで守秘義務を徹底している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ガイドラインに基づき権利擁護と支援の質を意識しながら、子どもや保護者に合わせた分かりやすい伝え方や具体例を用い、必要に応じてLINE等も活用して信頼関係を大切にした情報共有を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ハロウィンなどのイベント時に地域へ訪問したり協力を依頼することで、地域の方々とコミュニケーションを図り、連携を深める工夫をしている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを契約時や研修を通して職員・保護者に周知し、会社全体で想定訓練を行いながら、必要に応じて改善点を確認し臨機応変に対応している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月の避難訓練を担当制で実施し、内容を周知しながら動画やクイズなども取り入れて分かりやすく学べる工夫を行い、必要に応じて改善し続けている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や初回面談時にフェイスシートを用いて予防接種や既往歴（てんかん等）を含む必要な情報を確認・整理し、支援に活かしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事提供は行っていないが、契約時にアレルギーの有無を確認し、イベント等で飲食を伴う場合は事前に保護者へ聞き取りを行い、職員間で情報共有を徹底している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		各種マニュアルを契約時や研修を通して職員・保護者に周知し、会社全体で想定訓練を行いながら、必要に応じて改善点を確認し臨機応変に対応している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		各種マニュアルを契約時や研修を通して職員・保護者に周知し、会社全体で想定訓練を行いながら、必要に応じて改善点を確認し臨機応変に対応している。	

	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事業所内外で報告書をその都度作成・共有し、閲覧ファイルへの保管や朝礼での声かけ、月2回の周知・確認を行うことで、職員全体での情報共有を徹底している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会の設置と定期的な研修を通して、職員が積極的に学ぶ機会を確保し、適切な対応ができるよう常に意識して取り組んでいる。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束については契約時に児童発達支援管理責任者が丁寧に説明し、内容を確認したうえで保護者の同意を得て同意書を交わしている。	